

佐賀県産業労働部 産業政策課
DX・スタートアップ推進室 御中

令和2年度「佐賀県AI・IoT等技術活用可能性実証事業」 実施概要

令和3年2月26日

サガ・コア&カッター工業株式会社

1. 実証事業の目的 - (1)

背景

新型コロナウイルスの影響により、テレワークなどオフィスに出勤せずとも通常通りに業務を遂行できる環境の重要性を感じている。

加えて、時差出勤や出勤交代制などに対応する場合は、少ない人数で円滑に業務を回していく必要があるため、業務の円滑化を図らなければならない。

また、社内の課題に絞って意識を向けると、長年勤務をしてきた主要メンバーである従業員が 2年間の産休に入ったことや、配偶者の転勤が決まり 3月末で退社が決定している従業員がいることもあり、4名体制が2名体制となることが避けられない状況である。そのため一刻も早く社内業務の効率化を図り属人的な業務をなくしたいと考えている。

今後は技術の導入により、家庭にいながら子育てと仕事の両立ができる事、県を超えても引き続き協力し合える体制を整える事で、安定した事業運営を進めていきたい。

1. 実証事業の目的 - (2)

目的

①テレワークへの対応が可能な社内体制の整備

勤務場所に関わらず遠隔でも社員同士あるいは顧客とのコミュニケーションが円滑に図れるような、社内体制の整備を進める。

具体的には、チャットツールやウェブ会議ツールの導入、加えてそれらを正常に社内で運用できるような業務フローの構築やマニュアルの作成を行う。

②クラウドサービスを活用した会計・経理・労務周り等の業務改善

紙やEXCELで管理しているあらゆる社内情報を、クラウドサービスを活用し電子化。

社内全体での共有がさらに容易なものとなるように進める。

また、会計業務や勤怠管理業務、給与計算業務など、毎月多くの時間を要しているバックオフィス業務をクラウドサービスを活用することで、工数の削減や相互連携による業務の効率化を図る。

2. 自社の現状と課題 - (1)

現状の課題認識

1 紙での業務が多い

2 会計・経理・労務等の
バックオフィス業務に
無駄が多く業務負荷が大きい

3 外出が多いときなどに
スムーズな情報共有が難しい

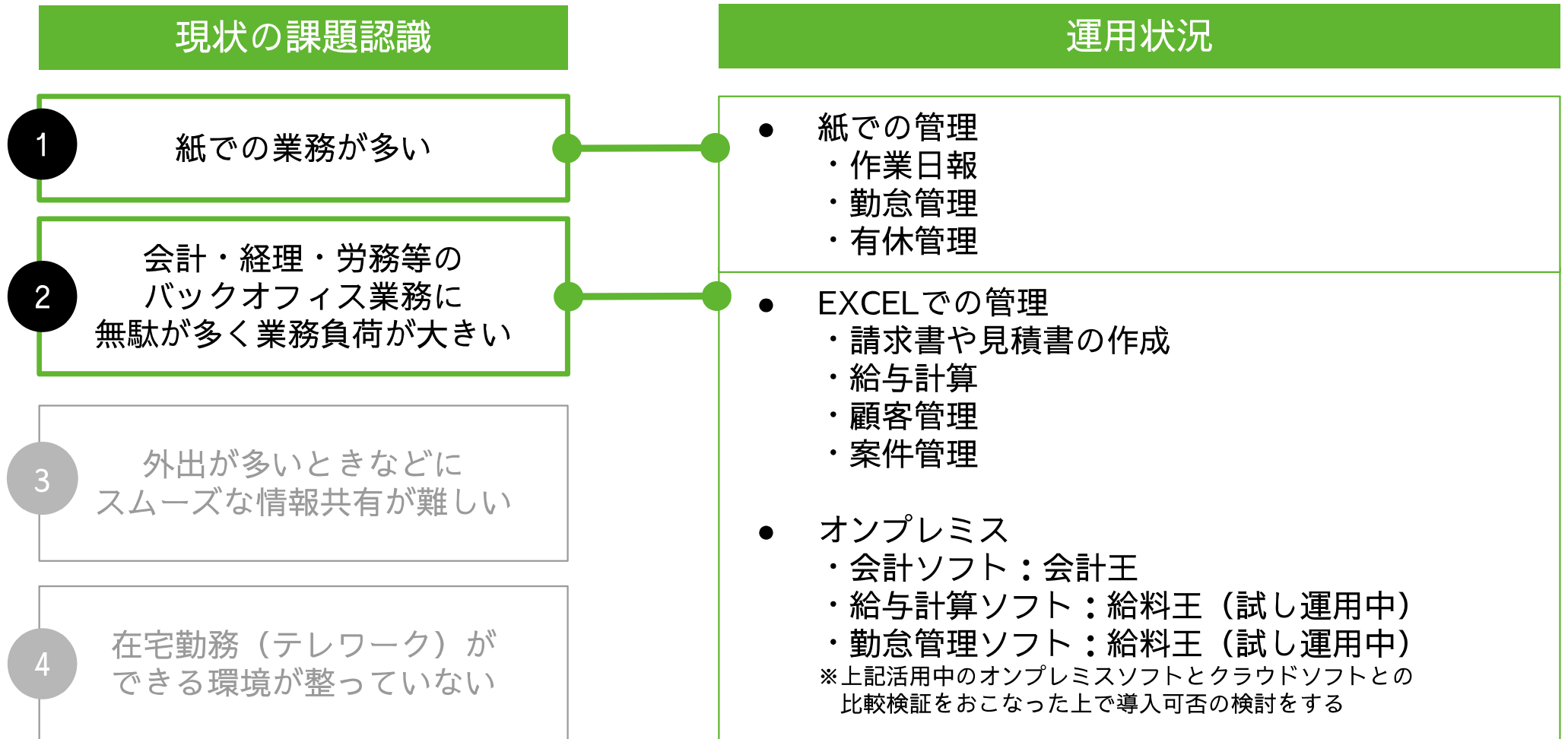
4 在宅勤務（テレワーク）が
できる環境が整っていない

ありたい姿

経理をはじめとするバックオフィス業務の
問題点を改善し、処理能力を高めたい

いつでもどこでも
仕事ができるようになりたい

2. 自社の現状と課題 - (2)



2. 自社の現状と課題 - (3)

現状の課題認識

1 紙での業務が多い

2 会計・経理・労務等の
バックオフィス業務に
無駄が多く業務負荷が大きい






3 外出が多いときなどに
スムーズな情報共有が難しい

4 在宅勤務（テレワーク）が
できる環境が整っていない

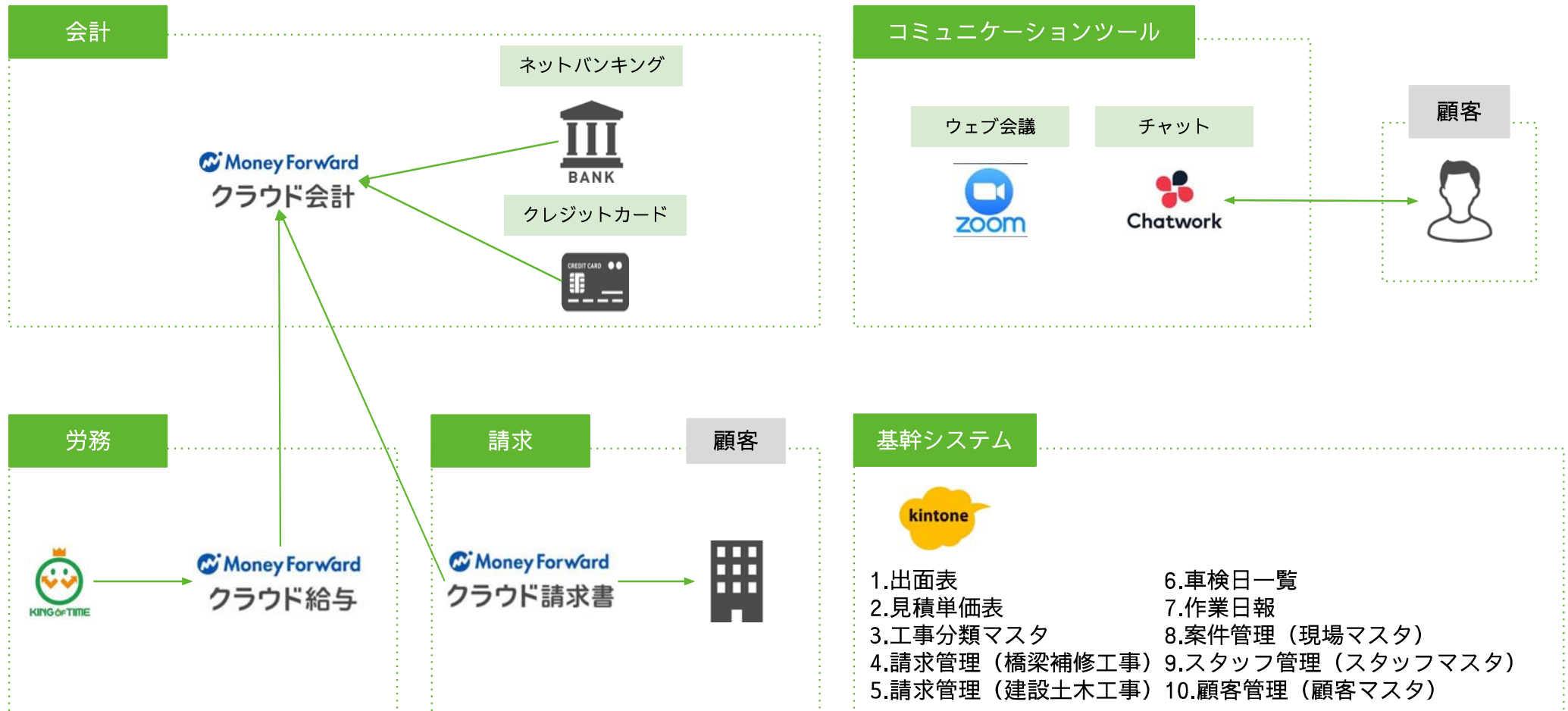
運用状況

- 社内イントラのようなシステムが無いため、Excel等での情報共有に時間がかかっている
- 社内や顧客との連絡手段がメールや電話、口頭となっており、情報共有や資料共有が効率的にできていない
- 社内での打ち合わせや顧客との面談は、直接対面にて行っている

3. 実証事業の実施内容(導入ツール)-(1)

<p>アプリ開発システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紙やEXCELで管理している社内情報を集約し一元管理 ・社内での情報共有が容易 ・場所や時間を問わず利用可能
	<ul style="list-style-type: none"> ・(会計)銀行口座等との連携により、自動で取引明細の取込、仕訳等の会計業務効率化 ・(給与)勤怠管理システムとの連携により、集計された勤務データに基づき自動給与計算 ・(請求書)社内になくとも見積書や請求書の作成業務が可能
<p>クラウド会計・給与・請求書</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩な打刻方法に対応しているため、勤務場所や状況に囚われない打刻が可能 ・打刻データの自動集計により、集計業務にかかる時間が削減 ・社内になくとも勤務状況の確認や、残業や有休等の申請/承認が可能
<p>クラウド勤怠管理</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・社内や顧客とのコミュニケーションコストの削減 ・データ化された資料の共有が容易
<p>チャットツール</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによるウェブ会議が可能となるため、社内会議や顧客との面談にあたって、同一の場所にいる必要性や訪問する必要性が少なくなる
<p>ウェブ会議ツール</p> 	

3. 実証事業の実施内容(導入ツール)-(2)



4. 実証事業の成果

全体を通しての成果

「テレワーク対応」自宅や現場からでも事務作業をおこなえるようになった

(1)場所を問わずシステムにアクセスできるようになったことで、自宅や外出先で事務作業をおこなうことや、また現場でも現場管理業務の合間などに事務作業をおこなうことが可能となった。

(2)外出先や現場からでも、必要に応じて車の中などでウェブ会議をおこなうことが可能となった。

現場管理



事務処理(車の中)



4. 実証事業の成果

全体を通しての成果

各ツールの活用により事務作業にかかる時間が削減できたことで、より少ない人員での業務が可能となった。また前ページ「テレワーク対応」ができたことにより、新たな働き方をおこなっていくことが可能となった。

事業実施前に抱えていた事務作業の課題 4名体制 ⇒ 2名体制






※「1. 実証事業の目的- (1)」参照

※新型コロナウイルスの影響により配偶者の転勤が延期となったため、現状は名体制

(1)事務作業にかかる時間が削減できたことで、人員が減少した場合も業務を遂行することが可能となった。

(2)テレワークへの対応ができたことで、育休中や遠方からでも各自宅等からの作業が可能となり、現状の体制を維持することも可能となった。

5. 実証事業のコスト(利用継続有無/利用料)

アプリ開発システム	×	—
		
クラウド会計/給与/請求書	○	MF会計/請求書:59,760円/年 MF給与:300円/人 × 12名 = 3,600円/月
		
クラウド勤怠管理	○	KING OF TIME:300円/人 × 5名 = 1,500円/月
		
チャットツール	○	無料プラン
		
ウェブ会議ツール	○	無料プラン
		

クラウドサービスの設定や運用サポート等、導入にかかる外注費用 1,500千円

(内訳) kintone導入 600,000円

クラウドサービス導入費用 600,000円

導入サポート費用 300,000円